



明治学院中学校・高等学校同窓会 白金会 会報誌

白金の丘

発行
白金会
編集
広報委員会

明治学院中学校・高等学校 同窓会からのご報告とお願い

明治学院中学校・高等学校同窓会

白金会 会長

高橋 敏 幸

(1968年卒)



明治学院中学
校・高等学校の

同窓生の皆様、この1年間お元氣にお過ごしでしたか？この1年の月日の流れはあつという間ではなかったでしょうか？年を重ねるごとに、1年間は早く感じて来るとも言われています。これは経験を重ねれば重ねるほど新しいもの、驚くものに出会うことが少なくなるからだとも言われています。私も一日一日が早く過ぎてしまうように感じ、やりたいことが沢山あつても一日が短く感じ予定通り進まず困っています。

さて、学校の方ですが、同窓会会長として今年も3月10日に明治学院高等学校の卒業式に出席させて頂き祝辞を述べさせて頂きました。

本年は304名の卒業生が巣立

って参りました。(卒業後の進路などはまだ確定しておりませんが、今年度発行の明治学院高等学校の広報誌には掲載されると思います。)。また4月6日には入学式が行われ、330名の新入学生を迎えました。8クラス編成になるようで、これはこれで学校側では大変なご苦勞な事なのです。しかし、1学年330名の生徒が理想的な数字だともお聞きしています。最近の卒業式では型破りな子を見受けることがなくなりホッとしながらも勇ましい子の出現もありなのではと思つてしまいます。今年はどんな個性的な生徒が入学してきたのか楽しみです。

【白金会役員会】

2025年4月1日から2026年3月31日までの白金会の活動はと言いますと、毎月執行役員会を開催し、その月の議題に沿つて会議を行つてまいりました。8月の時期は毎年休会としていますが、2025年度は1度だけ試験的にLINEアプリのミーティング機能を使った会議を試みてみました。

課題もありましたが、合格点の出来だったとは思いますが。今後、温暖化が進み、8月以外の月でも暑かったり寒かったりの日には臨機応変に会議をLINEアプリで行うことも考えて進めてまいります。

その他の月は必ず1回は打ち合わせを行つてまいりました。必要があれば臨時に役員を招集し打ち合わせや作業を行つてまいりました。ただ、執行役員の方々は仕事もあるため毎月の開催日は役員の都合によつて日時を替えての開催です。

【年度役員会／総会・記念礼拝】

午前中に年度役員会を開催し、現在年度役員は24名。出席者は8名、委任状は10名。よつて、年度役員会は成立いたしました。(白金会会則第10条より年度役員会の成立には、委任状を含め年度役員の3分の1以上の出席を必要とする。)

《議案審議事項》

- ① 2025年度活動報告
(2025年4月1日～2026年3月31日)
 - ② 2025年度収支報告
 - ③ 2026年度事業計画
(2026年4月1日～2027年3月31日)
 - ④ 2026年度予算
 - ⑤ 2026年4月1日より「白金在校生サポート基金」の設立施行の報告
- 以上を審議し議案は承認されました。

【白金在校生サポート基金】

白金会は今までも、在校生の応援支援を毎年行つてきています。今までかなり気になっていたのですが、せっかく明治学院高校に入學したものの入學後家庭の諸事情などから退学せざるを得ない学生がいることなどを知り、同窓会でもなんとか力になれないものかと何年もの間考えてまいりました。そこでこの度、「白金在校生サポート基金」を設立し、入學後、家庭が困窮し修學が困難な学生を支援していくと決まりました。

「白金在校生サポート基金」の原資は2025年3月10日まで存在していた「オール明治学院同窓会」にもともとあつた特別会計の預金5050万円の中から明治学院中・高同窓会330万円に分配された金額を充てました。(その残りは、大学関係4箇所合計4300万円、東村山中・高同窓会関係に420万円に分配されました。)ただし、この決定は白金会、東村山同窓会の代表者等が話し合いに加わることなく、一方的に旧同窓会側で分配方法を決定してしまいました。サポート基金の原資は当白金会分として貰い受けた330万円になります。残念ながら、当時のオール明学院同窓会の代表者らは、白金会に連絡をすることはなく、自分たちで高校にその資金の

事を話し、学院に振り込んでしまったため、なんとなくモヤモヤ感のまま現在に至っています。とは言え、在校生サポート基金の原資はこの330万円を充てていくことには変わりありません。

運用規定などをすでに作り、高等学校側（徳永校長と打ち合わせ中）とも運用の細かい点を話し合っております。細かい規定を設けておりますが、明治学院高等学校入学後、家庭の諸事情により修学困難な学生を支援していくことを目的にしています。

現状、大きなサポートはまだ望めないかもしれませんが、今後、せっかく明治学院高等学校に入学したのに家庭の事情で夢を諦めることがないよう微力ながらお手伝いしたいと考えています。今後、支援のご協力を同窓生の皆さま方にもお願いしていかなければならないと思います。その節はどうぞお力をお貸しください、よろしくお願いいたします。2014年度から同窓会運営の為に賛助金を頂いております。（1口1,000円から任意）卒業時に年会費を徴収しておりますので、その後、同窓生からも年会費3,000円を頂くようになりました。（卒業後4年間は免除）今後、あらたに在校生支援金口座を設けるつもりで検討してまいりました。在校生支援金は

1,000円と致します。同窓生の方々には負担をおかけすることになります。若し在校生の夢をつぶさない為にも、よろしくお願いいたします。お振込みは年会費以外については任意です。

【記念礼拝】

今まで、同窓生が一堂に集う

「Come Back to 白金」の開催を3年に1回のペースで行ってまいりましたが、コロナ禍の影響によって中断してまいりました。しかしながら、卒業50周年記念礼拝、還暦記念礼拝、傘寿記念礼拝、卒寿記念礼拝などは毎年年度役員会開催日の午後開催してまいりました。2026年3月14日には年度役員会を午前中に行い、午後2時半から記念礼拝を開催いたしました。記念礼拝終了後、チャペルにおいて徳永校長から祝辞を頂き、今の明治学院高等学校の話もして頂きました。その後の懇親会には69名の方々が出席なさり、お茶会ではありますが話に花が咲いていました。多くの方々の出席に感謝いたします。

コロナ禍前までは年度役員会は6月第4週の土曜日に開催と決まっておりますが、昨今、6月はチャペルの予約が取れず、どうしても年が明けてからの開催となっております。そのため、年度役員会での報告、承認が1年後となり間

の抜けた報告となってしまうています。そこで、記念礼拝と年度役員会を切り離し、早い段階で年度役員会だけ開催し、チャペルを使う記念礼拝は年明けに行う形でも良いのではと話し合いが行われています。早急に、結論が出ると思いますが、ホームページで確認してください。

【今後の日程】

当同窓会の2026年度の主な活動内容は次の通りです。

・会報誌「白金の丘」発行
・2026年6月～9月の間に「年度役員会」開催

・2027年3月（日程未定）

記念礼拝、卒50周年・還暦・傘寿・卒寿に該当する年度の方々（ホームページ上で告知いたします）ので宜しくお願いいたします。該当年度的方には、往復はがきでご案内予定です。）

【同窓会の現状と同窓生役員改選にあたり】

2025年3月10日でオール明治学院同窓会、明治学院大学同窓会、明治学院大学校友会がなくなり、2025年3月11日から、これらは統合され明治学院大学校友会としてスタートしました。この大学校友会は名前の通り大学卒業生・大学院の卒業生が会員です。（白金高校、東村山中・高は会員にはなれません。）校友会がスター

トし、校友会が軌道に乗ってから高校同窓会、東村山同窓会が合流する計画だそうですが、この話し合いには一度も参加したことはないの、以前、2006年に校友会1本化か構想がありましたが、結局20年経っても何も変わらなかったの、我々白金会は今まで通りのスタンスで運営していく事に致します。コロナ禍で年度役員会がまともに開催されなかったため、当面は今の陣容で運営していくことを2024年の白金の丘でご報告しております。が、同窓会の環境も変わり、在校生サポート基金の創設もスタートした現在、次期役員候補者の応募を行いたいと思います。いきなり役職について頂くわけにもいかない為、当面は現メンバーがメインとなって新メンバーを支えていこうと考えております。

次期役員候補者の届け出期間を2026年11月1日から2026年12月31日までとします。立候補の手続きについては「明治学院中学校・高等学校同窓会役員選出規則」第3条「立候補の手続き」に基づきます。選定にあたっては厳しい規定がありますので、候補者については同窓会にお問い合わせください。2027年の年度役員会で承認されましたら、またご報告をさせていただきます。

「クラス会開催報告」

1973年3月に明治学院高等学校を卒業された林宏之様から同窓会の開催報告を頂戴しましたのでお知らせいたします。

名 称…「明治学院高等学校D組

古希を祝う会」

開催日…2025年9月18日(木)

開催場所…グラントアーク半蔵門

(東京都千代田区)

参加者…卒業生19名、恩師2名

(1年生・2年生時の担任の先生

当日は、卒業から半世紀を超える年月を経て、懐かしい再会のひと時を過ごすことができました。特に、ご健在の1年生および2年生時の担任の先生をお迎えできたことは、出席者一同にとって大きな喜びでした。

坂仁先生は淡路島からお越しいただき、100歳を迎えられた後藤進先生は、お嬢様に付き添われてご出席くださり、当時と変わらぬ穏やかな笑顔で私たちに温かいお言葉をかけてくださいました。

そのお元気なご様子に、参加者一同感激し、会場は感謝と歓喜の雰囲気になりました。限られた時間ではありましたが、青春時代を共に過ごした仲間との語らいを通じて、絆の大切さを再認識する有意義な会となりました。当日の記念写真を添えてご報告いたします。

白金会より…
林宏之様、同窓会の開催報告、誠にありがとうございました。また今回の開催をきっかけに、後藤先生、坂先生に寄稿文をお願いする事が出来ました。



「明治学院とわたし」



明治学院中部卒業
元明治学院高等学校教員
後藤 進

(1942年卒)

私は「明治学院で勉強し、卒業できたことがよかった」と、本当にしみじみ思っているのです。明治学院は聖書の

教えに基づいて教育されているということ、ご承知だと思えますけれども、明治学院は「特に試験のための勉強だけでなく、他人を思いやり、他人のことを考え、心を養う教育によって人格形成がなされる」という学校です。そういう教育の下で、私は学生生活をのんびり過ごすことができました。「明治学院は本当に良い学校だった」と思っております。

私が明治学院を選んだ理由は、親がなぜか明治学院を勧めてくれたからです。当時西小山駅の近くに住んでいたもので「通学に便利である」、それと専門部(今の大学)があり、「中学を卒業したら入り易いのではないか」というようなことがあったから選んだのではないかと思えます。入学して先ほどの通り「明治学院で良かった」と思います。私の入試の印象は強いのです。募集人員が二百名、受験生は二百五十名くらいです。最近はずっと倍率が高いと思います。今だったら合格できなかったと思います。学科試験の後に面接試験がありました。面接試験官から「水の利用について答えなさい」と聞かれました。小学校の先生からは「家族の質問があるだろう」といわれて用意していたのが違うのであわてどぎまぎし、しつかり答えられませんでした。その面接

の先生は後でわかったのですが理科の稲川先生で明治学院出身の先生でした。私が教員として明治学院へ就職した時にも教えておられました。合格で入学式に出席しました。小学校卒業後まだ月日の経っていない一年生の私が父と一緒にチャペルに入りまして、不安な気持ちで着席し、古風なチャペルに目を見張っていました。入学式がオルガンとともにキリスト教礼拝方式で始まります。驚きと強い印象が残りました。当時、学院長はアメリカ人のウィリスG・ホキエ神学博士でした。中学部長は都留仙次先生でした。その時の祝辞はホキエ先生です。ホキエ先生は流暢な日本語で祝辞を述べられました。これも驚きでした。アメリカ人が日本語で祝辞を述べるなんて考えてもみなかったし、あまりそういう外国人と接していませんから驚きでした。先生の祝辞は次のようでした。昔中学部校舎の入り口の三階に大きな電気時計がありました。その電気時計は「生徒が授業に遅れないように、生徒に時刻を知らせるためだ」とおっしゃいました。また電気時計を例にして「毎日毎日、一秒一秒を大切にしてください。この学院で、白金の丘で勉強して過ごすように」と話されました。私は中学一年の時の印象が強いです。毎朝、礼拝がありましたか

ら、卒業後クラス会があると印象に残っている礼拝を話題にします。日米戦争が昭和十六年（一九四一年）十二月八日、私が五年生の時戦争が始まったのも礼拝は五年間続きました。私達が十代の思春期で感受性の強い中学生のときに受けた礼拝、キリスト教教育の経験は、人間形成の上で非常に影響が大きかったと私は考えています。一年生ですから讃美歌を上手に歌えないのですが、上級生の歌声につられて歌えるようになってまいります。オルガニストは安部正義先生で讃美歌を歌うテンポがどうしても遅いので、「早く歌え」と注意されたことを思い出します。昔チャペルのオルガンは吹子式オルガンで小使いさんが吹子の棒を左右に押して空気を送り安部先生が弾くのです。確か大久保さんという方で授業の鐘を正確に打つことで有名な小使いさんでした。中学の授業はわかり易く面白かったです。初めての中間試験は一日二、三時間の試験だけで帰ることができのです。一年生になってものすごい驚きです。一年生になって井の中の蛙だった私が私の知らないことを沢山知っている友人から教えられました。さすが中学校という実感を持っていました。世界観というか視野が大きく広がったことを感じました。

次に二年生になりますとクラス替えになります。クラス編成は成績順で振り分けられます。成績の良い者は教室の後へ座って、成績が悪くなると順に前の座席になります。成績順に全員が四組に平等に振り分けられます。クラス替えがあつたので同期の人の名前は殆どわかりました。同期会がありまして久しぶりに会った連中でも昨日会ったような話し方をしていました。今の中学校にはない教科として軍事教練が週に一回ありました。軍国主義日本に於いて中学生といえども兵隊となつて「いかに敵と戦うか」の方法が教えられました。歩兵銃、機関銃等の使い方や構造を学びました。小銃を持ったまま地上を這って前進したり展開して敵と戦う方法を習ったり、木銃で人を突き殺す銃剣術の練習あたかも一兵士となつて戦争するような事を習いました。

入学して楽しい思い出に修学旅行がありました。一年の時には伊豆方面二泊三日の旅行でした。入学して六月なので仲間作りをするためか三年生くらいまで続けました。何しろ歩かされました。強羅から箱根仙石原を通って地図もなく箱根神社まで歩き、そこで集合点呼して二子山温泉まで歩き一泊しました。翌日は弁当を持って三島神社集合というきびしい旅行で

した。生徒に地図も与えず歩かされたのですから今なら学校に文句がでる位でしょう。三島神社集合点呼して伊豆長岡温泉へ電車で行きました。帰りは乗り物で東京に帰りました。中学一年生といえども小学校卒業して二か月経た六月の旅行ですから大変でした。旧制中学校の一端を書いてみました。いかがでしょうか。

白金会のこれまで、 そしてこれから



明治学院元校長 坂 仁

（校長在任期間…
1996年～
2001年）

同窓生の皆様
如何お過ごしでしょうか。この度高橋会長から白金会が発足して四半世紀が過ぎたこの機に何か一筆をと声を掛けられました。白金会発足時に校長をしていた関係での依頼と受け止めました。

学院を退職して25年、過去の記憶が薄れていく年齢ですので期待に沿えるか心配ですが筆を執りました。

私にとって明治学院は学校教育とキリスト教信仰の学びの原点であります。新任当初の私は血気盛んが過ぎてキリスト教信者とは思えない乱暴な教員でした。しかし

在職38年の月日の中で、幾度か先輩の先生方や保護者・在校生の皆さんからその乱暴さを指摘され、私のトゲや牙・角は抜かれて本当の明治学院の教育とキリスト教教育を教えられました。その意味で私は皆さんと同じ同窓生です。

白金会発足時、故桜井初代会長や現高橋会長らが頻繁に集い、同窓会の存在意義とあり方について討論を重ねた結果、旧体制の学院同窓会から離脱して高校独自の同窓会設立に至りました。私はこの結論を大いに歓迎し、設立準備の補助金を少額であるが予算化し、体育館の一角に事務室を準備いたしました。

学院は創立160周年を目標にした2011年からの学院教育ビジョン『あなたの生き方が社会をつくる』を発表しました。このビジョンの中で創立200年を見据えた「明治学院一貫教育宣言」もなされており、私はこの冊子を手元に持った時、学院関係者として誇らしく思え、感動したことを思い出します。おそらく白金会の方々も同様に感じ有形・無形のご協力をされた事と思います。

現在の世相はAI技術があらゆる分野に浸透していく中で人間個人の存在が見えなくなっていくというのではないかと思います。特に学校教育でのAI使用は注意が

必要ではと思います。以前ワープロや電算機が持てはやされ始めたころ会議で通知簿を手書きでなくコンピュータで書くことが提案されました。

その時、手で書くからこそ生徒の顔が脳裏に浮かびより良い教育につながるとして否決されました。いかにも明治学院らしい発想です。現状ではAI技術が学校教育に入り込むのを前例のように単純に止めればよいというものではないでしょう。しかし専門家はすでに学校教育への負の影響について危ぶんでいると思われます。学院も「明治学院一貫教育宣言」を見据えて人格教育を尊重し、人格や個性・能力等が見えなくなるようなAI依存を避ける施策をもつことが望まれます。

同窓会がこのAIの問題にどう関われるか分かりません。同窓会はどう有るべきかを問われれば、単純に答えると学院教育第一の理解者であり生徒募集の最大の協力者であるべきだと思います。今まで以上に明治学院教育を理解して支えられることを期待いたします。



「白金会新年会」

2025年1月13日(火)に、昨年と同じ新橋駅近くにある中国料理「新橋亭(しんきょうてい)」にて徳永校長先生、柿沼先生などをお招きし、白金会新年会を行いました。



後列左から、白金会高岡総務委員長、田中副会長、荻原副会長、安田監事、平木監事
前列左から、柿沼先生、徳永校長先生、高橋会長、柏井役員、加藤役員

「オジイのよもやま話」

白金会副会長

田中 義夫
(1968年卒)



以前、人生初
めの出来事に

出会いました。西武池袋線から山の手線に乗り換え日暮里まで行く時のことです。その日は休日の夕方頃でかなり多くの人が次に来る電車を待っていました。待つこと2、3分山の手線が来て車両から多くの人が降り、乗り込む列の一番前にいた私が乗ろうとした時に、ふんぞり返ってスマホを見て座っている大柄な若者(男)が目に入ってきました。嫌な感じだなあと思うと同時にアイツの前には行きたくないとの思いが頭をよぎりました。とは言っても思いどおりにはならないもので、なんと後ろから乗り込む人達におされて、あにはからんやそのイヤな若者の前に押し流されて真ん前のつり革を掴んで立ってしまう羽目になってしまったのです。見るとはなしにイヤな若者を上からチラ見した私と下から見上げるイヤな若者と目が合ってしまったのです。とその瞬間に、なななんとそのイヤな若者が立ち上がって小さな声で私に「どうぞ。」と言って席を譲ってくれたのです。

です。生まれて此のかた席を譲られた経験のない私はどうしたら良いか一瞬とまどってしまったのですが、譲られたときは断るものじゃないと聞いていたので「ありがたい。」と言って遠慮なく座らせて頂きました。譲ってくれた事が嬉しかったり、ついに私も譲られる年寄りに見られるようになったのかと少し淋しい気持ちを感じながら座っていました。よくよく考えたら白髪頭で後期高齢者の私は誰が見てもオジイです。席を譲られる事は自分の年齢を教えられた必然的な出来事だったのかもしれない。もうひとつこの若者から教えられたことがあります。それは人を外見だけで評価しないという事です。人には良い所も悪い所もあるけれど、私には相手の悪い所ばかりが気になってしまいう心のクセがあり、もつと相手の良い所を見る様にと教えられた気がします。そんな事を考えているうちに舍人ライナーに乗り換える日暮里駅に着きました。ホームを歩いていると、なんと少し前方にあの若者が歩いていてではありませんか、足早に若者に近づき「さっきは席を譲ってくれてありがとう。初めて席を譲られて嬉しかったよ。」と声を掛けました。すると若者から「良かったです。」と返事が返ってきました。「嬉しかったよ。」「良かった



です。』の短いやり取りでしたが、何故か清々しく爽やかな気持ちになりました。

ところで後期高齢者という言い方に抵抗がある私にとつて目からうろこの出来事がありました。先日、の記念礼拝&懇親会で同窓生の多くの先輩方々とお話をして思わされたのですが皆さん永いこと人生を歩まれ多くの貴重で尊い経験を重ねられて来たという意味の高貴高齢者、その経験がエネルギーとなり何事にもポジティブにとらえサービス精神をお持ちの姿から好機（チャンス）高齢者。後期を高貴、好機と解するといひんだと教えて頂きました。自分の指針にしていきたいと思います。先輩の方々ありがとうございました。とりとめのない文になってしまいました。が、人生百歳時代、いろんな時に、いろんな人から、いろんな事を教えて貰っている事を忘れずに歩んでいきたいと思ひます。

【卒業アルバム回顧録】 1975年卒の林伸行さん提供



当時のパイプオルガンは現在と違い、壇上の上部に設置されていました。



職員

陶山義堂
中澗堂一
澤田 天則

[illegible]

URL <https://mg-shirokane.com/>



白金会ホームページ QR コード

〒108-0071 東京都港区白金台1丁目2番37号
明治学院高等学校内

メールアドレス ※昨年度からメールアドレスが変更になりました。
meigaku.shirokane@gmail.com

白金会ホームページおよび連絡先は左記の通りです。

白金会の連絡先について

収 入		支 出	
初年度会費	3,648,000	会報誌発行費	2,260,446
年会費	540,000	年度役員会・総会開催費	100,260
賛助金	455,000	委員会活動費	267,370
懇親会参加費	34,000	事務用品費	54,137
雑収入	2,352	交際費	93,732
		通信費	21,718
		ホームページ作成費	46,200
		会員名簿整備制作費	503,888
		在校生支援費	50,000
		卒業記念品費	720,500
		特別記念品費	0
		雑費	0
		振込手数料	64,304
		予備費	0
小計	4,679,352	小計	4,182,555
前年度繰越金	3,451,188	次年度繰越金	3,947,985
総計	8,130,540	総計	8,130,540

(単位: 円)

【明治学院中学校・高等学校同窓会
（白金会）収支計算書】

私の健康法 その12 思いつくままに(v)



明治学院中学校・
高等学校同窓会

(白金会)
監事 平木 巖
(1962年卒)

今回も健康つくりのための歩き方等について、述べさせていただきます。ウォーキング前に1分間、簡単な準備運動を心掛けています。良い姿勢をつくってから、歩き始めるようにしています。見た目も若々しく、快適に歩くことができます。普段の生活では、背中が丸くなり、肩が前に出た「猫背」の姿勢になっている人が多くいます。この姿勢で歩くと、歩幅が狭くなり運動の効果が減るだけでなく、つまずきやすくなると思います。せっかくウォーキングをするのなら、その前に簡単な準備運動で姿勢を正し、運動の効果を高めています。やる気も高まり、楽しく歩いています。

一分間でできる準備運動とは、まず手を組んで大きく伸びをします。次に胸を張ります。体を横から見たときに、背骨がアルファベットの「C」に近い形になるようにします。よい姿勢ができれば、続いて腕を大きく前後に振ります。後ろにも大きく振ることを意識しています。肩が引けて背筋が伸び、姿勢も整い、すいすい歩きやすくなります。

準備運動が終わったら、いきなり早いペースで歩くのではなく、良い姿勢で次のような歩き方を意識して歩き始め、身体を動かすようにしています。

まず、胸を張り、背筋を伸ばします。脚や腕を大きく動かすためには、上体が良い姿勢であることが大切です。肩が前に出て背中が丸くなっている状態では歩きにくいのです。次に、後ろ側の足で地面をしつかり蹴ることを心掛けています。足首のスナップ(返し)を使つて、しつかり蹴りだすようにしています。そうすることで歩幅も大きくなっています。腕は後ろにもしつかりと振ります。次に脚を前に振り出します。脚をしつかり振り出さないと、つまずく原因になります。ひざを後ろから前に送り出すイメージで振り出すと、自然と足が前に出ます。途中、一旦立ち止まって前屈したりします。

今一番心掛けていることは、高強度の運動と低強度の運動を繰り返しています。これをウォーキングに取り入れていきます。

三分の早歩きと、三分のゆっくり歩きを交互に繰り返しています。早歩きのポイントとしては、①首を軽く引き、背筋を伸ばしま

す。②大腿で歩きます。③手を前後に大きく振ります。

このようにして、1週間で「早歩き」60分以上を目指しています。



「別れ」

2026年2月24日、白金会副会長 畑 成一郎氏が安らかに旅経ちました。76歳でした。3月3日お通夜、3月4日葬儀が行われ多くの方々が参列し別れを惜しましました。

2025年5月に食道がんが見つかり、抗がん剤治療など最善を尽くして病と闘ってきました。

希望を持ち、辛抱強く治療に専念し、具合の良いときには外出をして食事事も楽しんでいただとお聞きしていました。今年、1月の白金会の新年会には出席する旨の連絡を受けていましたが、3日前に体調を崩し、残念ながら欠席となりました。

彼は、私と二人三脚で白金会のために尽くしてくれました。彼がいなかったら、白金会の運営が滞ってしまっていたかも知れません。本当に良き戦友でした。

畑君にもう連絡ができないかと思うと寂しい限りです。これから、天国で白金会を見守っていてください。

畑君、長い間ありがとう！そして、安らかに眠りください！

明治学院中学校・高等学校同窓会
会長・高橋敏幸

